

無事に車を返却して、石垣島行の帰りの飛行機に乗りました。空港では「与那国島産の黒糖」を買いました。あとは描いた水彩画や、ひろった軽石があるので、それで十分だと思いました。

【3日目 / 5月24日 (つづき)】

約5時間の与那国島レンタカー旅行を終えて、空港向かいのレンタカー会社に戻ってきました。



レンタカー会社では、車の貸し出しだけでなく、宿泊や飲食もできる施設を運営しています。敷地にあるキャンピングカーのようなお店で、飲み物や軽食も注文できるのです。



この日も暑くてのどがかわいていたので、何か注文しようと思っていたら、パイナップルドリンクをサービスしてくれました。



帰りの飛行機の中では、ちょっとした「実験」を試してみました。巡航速度で飛行する航空機のプロペラを、スマホのカメラで動画撮影をすると、まるでプロペラが停止しているように映るといいます。上の写真がその証拠です。まさに停止しているように映っていました！もちろんプロペラは回転し続けていました。スマホカメラのシャッタースピードと、プロペラ機の回転率の関係で、静止しているように映るのだそうです。これは、プロペラ機に搭乗した時でなければできない、おもしろい「実験」です。



新石垣空港到着時には、また雨でした。この便もタ

一ミナルまで「歩き」でした。タラップの下で大きな傘を貸してくれたので、とても助かりました。



「日本最西端の売店」で買ったお弁当以来、何も食べていませんでした。(というか何も売っていませんでした) このあとは「天体観測」という重要な仕事も残っています。空港の食堂で、再度「やんまそば」を食べてしまいました！ どうもこの味と食感にはまっってしまったようです・・・！

今夜は石垣旅行の最後の晩です。最も大きな仕事である「南十字星の観望と撮影」もラストチャンスです。何としてもそれを達成したいと思いました。



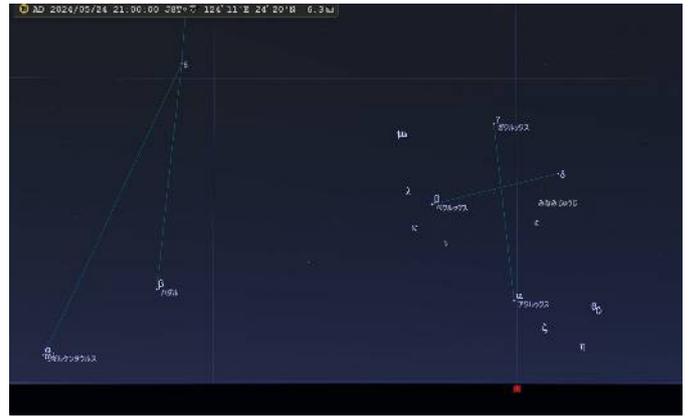
(国土地理院)

南十字星の撮影の成否は、ロケーションがすべてです。南十字星の全景を撮影するには、以下の条件がすべてそろっている必要があります。

- 1) 北緯 25 度よりも南であること。
- 2) 南側に人工物や樹木などの障害物がないこと。
- 3) 市街地から近すぎないこと。
- 4) すぐそばに灯台や自動車道がないこと。
- 5) 安定して三脚を置ける場所があること。

石垣島は島全体が北緯 25 度よりも南に位置しているので、(1) の条件は万全です。(2) ~ (5) の条件を満たす場所を、私は出発前から考えていました。そしてこの朝下見をした石垣市南端の海岸が、すべて

の条件を満たし、観望や撮影には最適とわかりました。



観測地点の緯度は北緯 24 度 20 分、東経 124 度 11 分です。南側は海だけで、灯台も市街地も港も離島もありません。太平洋 (フィリピン海) だけです。その緯度経度を天体シミュレーションソフトに入力してみました。すると、この日の午後 9 時に南十字星が南中し、一番高い星で水平線から 8 度ほど、低い星でも 3 度ほど昇ることがわかりました。人工光の影響のない場所なら、水平線から 1 度以上昇れば、確実に写真に写ります。

更に、南十字星の左側 (東側) に、ケンタウルス座の α 星 (アルファせい) と β 星 (ベータせい) も見ることがわかりました。このケンタウルス座の星も、関東地方では決して見ることができない恒星です。また、ケンタウルス座 α 星 (正確には α ケンタウリ恒星系) は、太陽系から最も近い恒星系です。太陽系からわずか 4.3 光年しか離れていません。といっても、電波で通信したとしても、「もしもし」「はいはい」だけで 8.6 年もかかります。この星も見たいと思いました。



観測地にはまだ少し明るいうちに到着して、機材の準備を整えました。朝下見をしておいたので、設置場所は万全でした。実はこの機材も「旅行携帯用」+「石垣島観測専用」の「手作り観測機材」なのです。